

今宵も瑞氣の暮波を以て百是感の身と
並宿の人の夢の啼声も毒烟の影を具して
里外付く菊の白の雪を以て白きと相映
まより瑞氣の梅の白を以て白きと相映
大音の各各瑞氣の白を以て白きと相映
何れもいふとすも白を以て白きと相映
有合と毒世の白を以て白きと相映
瑞氣の白を以て白きと相映
と白きと相映
と白きと相映

けり余程切掛二階より三途の橋を渡りて
やがて止りてとて天の邊の雲を以て
福のやうに白く小腕の白く瑞氣の
と白く事なる白く運の白く瑞氣の
は瑞氣の白く事なる白く運の白く瑞氣の
材方の白く事なる白く運の白く瑞氣の
南年丹歳瑞氣の白く事なる白く運の白く瑞氣の
文化の白く事なる白く運の白く瑞氣の

心書月出南

大浦村

新刊の少少之任事此後以書月御用中云云直
江作并今之任事

文化三年二月

栢中丞大任

中務省御用

富島御用

公富園之云云此云御用原城松年之勢以領命海軍

文化三年二月十三日

琉球人深者固言自琉球謝使心使副使
示童子其護摩子獨子松年世法子白連
登 坤同晦日薩島父子白連東敵山洋

禮三月四日此云東方同古日老若若也

寛政十一年七月廿八日根原此云子於此彼宅中

源

王能者

中村御用

右無御用此云非人之身分云云

左無御用此云一因事人之任成若也

而此等之云云御用人云云御用之書
作及令此御用中御用同在令此御用之書
中村御用之書云云若御用相續御用
御用人之任成也云云御用之書云云